No.39
令和８年11月１日　発行

“いま”を知る。“これから”を考える。

なかやま 議会だより

P3 令和7年度決算を認定！
P24 特集 こども議会講座で楽しく学びました



秋を満喫！中山すももウォーキング
⇒関連記事Ｐ22

中山町議会

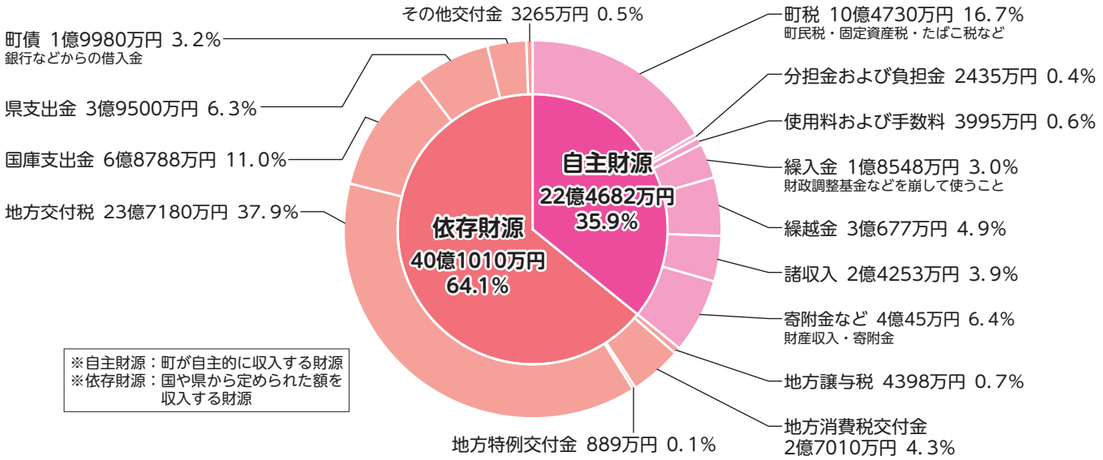
令和７年度決算を認定！

一般会計歳出 58億6731万円　全会計支出額 合計 92億777万円

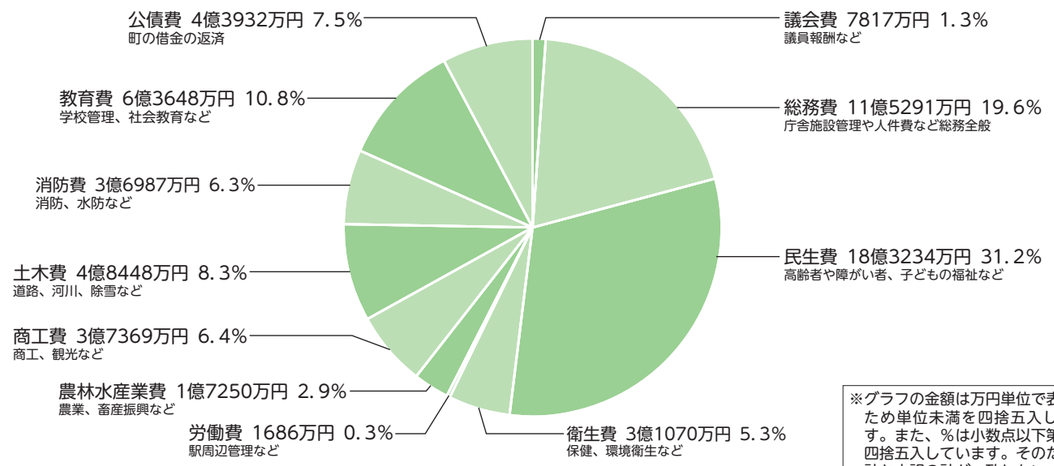
基金残高（貯めているお金） 28億8854万円（前年度比 1億4826万円増）　借金残高 65億9574万円（前年度比 3億4066万円減）

		収　入（歳入）	支　出（歳出）
一　般　会　計		62億5692万円	58億6731万円
特別会計３会計合計		27億1065万円	25億9247万円
	国民健康保険特別会計	11億6371万円	11億1099万円
	後期高齢者医療特別会計	2億　507万円	2億　160万円
	介護保険特別会計	13億4187万円	12億7989万円
下水道事業会計	収益的収支	4億1126万円	3億9915万円
	資本的収支	3億　448万円	3億4883万円
総　計		**96億8331万円**	**92億　777万円**

一般会計歳入　総額 62億5692万円（前年度比5.1％増）



一般会計歳出　総額 58億6731万円（前年度比3.9％増）



※グラフの金額は万円単位で表示するため単位未満を四捨五入しています。また、％は小数点以下第２位を四捨五入しています。そのため、合計と内訳の計が一致しない、または100％とならない場合があります。

９月定例会が開催されました

９月定例会が、９月３日から11日までの会期で開催されました。

議事内容は、令和７年度中山町一般会計・特別会計歳入歳出決算の認定、令和７年度中山町下水道事業会計決算の認定のほか、令和８年度の補正予算５件、人事案件２件で、すべて原案のとおり認定、可決、同意されました。（議案一覧はＰ６）

令和７年度決算審査等結果報告

令和７年度中山町一般会計、各特別会計および下水道事業会計について、町監査委員による決算審査が、７月24日、27日、28日、30日、８月６日の５日間で行われました。

審　査　結　果

全般的にはおおむね妥当な決算であると認められるが、一部に改善を要する事務等が確認されたことから、次のとおり指摘するので改善を図られたい。

監査委員から町当局への指摘事項（抜粋）

○町税等の収納率が前年度に比べ低下しているため、収納対策専門員の配置も含め総合的に効果的な収納対策を検討すること。

○予算の流用について、前年度に比較して件数、金額ともに大きく減少している。今後も適正な予算執行と適正な会計事務処理に取り組むこと。

○年度末における財政調整基金の現在高は相当な規模となっている。そのため公共施設整備の財源となる公共施設整備基金等へ積み替えるなど、基金の適正な管理と運用を検討すること。

○農業振興施策の事業効果を高めるために、ＪＡ等の関係団体との情報共有や連携体制の強化を検討すること。

○自主財源等の確保や事務事業の見直しを進め、効率的かつ効果的な行政運営に努めるとともに、第６次中山町総合発展計画（後期５か年基本計画）の着実な推進が図られることを期待したい。

中山町代表監査委員　丹野　充
中山町監査委員　斎藤　眞一

令和８年　中山町議会９月定例会日程表

期　日	会　議	備　考
９月３日（木）	本　会　議 （柏倉家住宅保存・利活用特別委員会）	一般質問 議第41号～42号　提案理由の説明　報告
９月４日（金） ～９日（水）	休　会 （全員協議会） （厚生産業常任委員会） （総務文教常任委員会）	令和７年度決算に係る説明等、質疑（各課ごと）
９月10日（木）	休　会	（議案調査）
９月11日（金）	本　会　議 （全員協議会） （公共施設再配置特別委員会）	議第41号～42号　質疑、討論、採決 議第43号～49号　各件毎提案理由の説明、 質疑、討論、採決

令和７年度 決算質疑

９月定例会の会期中、４日間にわたり全員協議会を開き、令和７年度決算の審査を行いました。また、成果説明書をもとに、各課、事業ごとの実績、成果、課題などの報告を受けました。活発な質疑のあと、本会議において一般会計、各特別会計および下水道事業会計の決算を認定しました。

主な質疑内容は次のとおりです。一部を抜粋しています。

移住・定住後の支援が必要

Q 移住・定住した方へのその後の支援が重要では。

A 令和7年度の定住促進・住宅取得支援補助金の実績は18件であった。補助金を受けた方にアンケートを実施しており、いただいた声を踏まえて、より良い事業にしていきたい。

羽前長崎駅の整備を

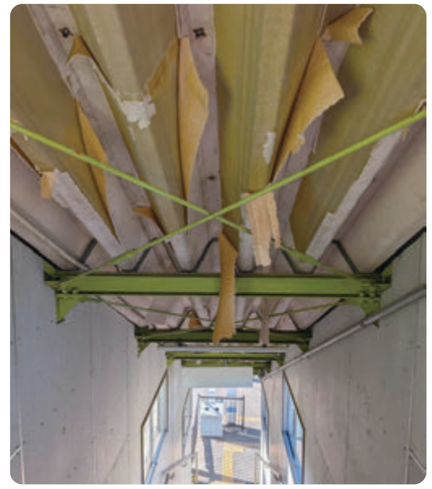
Q 羽前長崎駅について、連絡通路が老朽化しており改善してほしい。また、水飲み場の設置を検討してほしい。

A 水飲み場については、現状を確認し、これまでの経緯を調べて必要性を検討したい。

垂直避難拠点整備事業の工事完了は

Q 現在も工事が進んでいるが、最終的にどのようにするのか。

A これまで、ガードレールの整備や斜面の舗装、地面部分の砂利敷きの工事を実施し、まずは避難できる状態になった。令和8年度は地面部分のアスファルト舗装と夜間照明の設置、臨時で水道を引けるような整備を予定している。



老朽化した駅の連絡通路、改善が望まれる

窓口混雑の緩和を

Q 窓口の課題として混雑の解消を挙げているが、今後の取り組みは。

A 今後、マイナンバーカードの更新時期の集中で窓口混雑が予想されている。現在、証明書のコンビニ交付、税金の収納についてはコンビニ納付や二次元コードでのスマホ決済が可能だが、まだ知らない方も多いため、周知を続けたい。また、会計室での収納事務は手作業のため、対策を進めたい。

リチウムイオン電池回収の周知徹底を

Q モバイルバッテリーの回収について進捗は。個人で持ち込む場合のルールもしっかり周知してほしい。

A モバイルバッテリーなどに内蔵されているリチウムイオン電池は水銀含有ごみでの廃棄を呼びかけている。また、令和8年9月から清掃工場に直接持ち込みも可能となっており、合わせて周知していく。

町を守るため森林の整備を

Q 森林環境譲与税基金積立金が増えてきたが、土砂災害等を防ぐための使い道も考えてほしい。

A 現在は使い道として、森林経営管理制度に基づき、管理不全の私有林を町で引き受けた場合の森林整備への活用を考えている。個人への意向調査を行い、結果を踏まえ、間伐等にも基金を活用していく。

町内産農産物の消費を支援

Q 町内産農産物消費応援事業で、割引券は何枚発行されて、すべて利用されたのか。

A この事業は、ひまわり温泉ゆ・ら・らの売店で300円以上の町内農産物を購入した場合に100円分の割引券を交付するもので、令和7年度は2万91

休日開催の検討も

Q 「障がい児等を持つ親の交流会」が初めて実施されたが、今後も継続してほしい。参加しやすいよう休日や学校行事終了後の開催などは考えられないか。

A 初めての開催で参加者は少なかったが継続していきたい。休日の開催等も視野に入れて検討したい。



高い利用率で、さらなる農産物の振興を（ゆ・ら・ら売店）

特定空家になる前の対策が重要

Q 特定空家にならないように、一般空き家の除却費について補助を拡大する考えはあるか。

A 一般空き家については、所有者自身での除却を進めるため、空家除却費等補助金を令和4年度から開始している。令和7年度は一般空き家7件の除却に50枚発行し、その使用率は92％となっている。

英語を使う機会の創出を

Q 英検受験補助金について、成果は。

A 令和7年度は、2級が2名、準2級が9名、3級が21名、4級が20名、5級が11名の計63名の申請実績となっている。



ＡＬＴの授業で、生きた英語を生徒に

Q 今後は英語を使う機会をどうつくっていくかが重要では。

A 現在は機会を設けてはいないが、各学校とも相談し、事例も研究しながら考えていきたい。

米の値上がり、給食でも

Q 学校給食の材料費が昨年に比べ増額となったが、米飯にかかる費用はどのくらい値上がりしたのか。

A 炊いた状態のご飯で、60g当たり18円、100gで28円値上がりした。



給食のごはんには、ビタミン強化米を含む町内産米を使用

クマ目撃から防犯カメラを設置

Q 小・中学校に防犯カメラを設置したとのことだが、台数は。

A 両小学校はこれまで設置がなく、新たに2台ずつ設置した。中学校は既に設置があり、1台追加した。今回は外からの侵入がわかるような位置に設置している。

生徒の声から開催方法を工夫

Q なかやま未来塾の参加人数の実績が令和6年度と比べて大きく減っているが、計上の仕方が変わったのか。

A 令和6年度までは登録制で開催していた。しかしアンケート調査の結果、「自由参加にしてほしい」と意見があり、令和7年度は自由参加型の開催に変更した。しかし、逆に人が集まらなくなり、再度調査したところ「参加しにくい」との意見があり、年度途中で開催場所を中央公民館から中学校の図書室に変更した。結果として実績は延べ人数で60人となった。令和8年度もこれまでの反省を踏まえ、工夫して開催していきたい。

令和８年度一般会計補正予算（第４号）

９月定例会で４回目の予算の見直しを行いました。その結果、歳入歳出予算をそれぞれ１億4912万6000円増額し、総額で64億3503万3000円とするものです。見直しの主な内容は次のとおりです。

長崎小学校の桜の木、伐採で安全確保へ



校門横の桜を伐採

増額　57万円

長崎小学校で、倒木の恐れがある桜の木３本を伐採、１本を剪定することで、安全を確保するものです。

公共施設再配置に備えて

増額　5000万円

公共施設の整備および維持修繕への備えを進めるため、公共施設整備基金に積み立てるものです。これにより基金残高は１億3100万円となります。

鳥獣対策を安全に行うために



防刃生地で作られた防護服▶

増額　44万6000円

クマやイノシシが出没した際に、現場対応や捕獲作業をする人の安全を確保するため、防護服３点セット（長袖ジャケット、長ズボン、ネックガード）を５名分購入するものです。

指定ごみ袋の製造コストが増加

増額　347万6000円

中東情勢などの影響により原料となる石油製品（ナフサ）が高騰しており、家庭系指定ごみ袋の製造単価を見直す必要があるため、当初の発注見込額との差額を増額するものです。

質疑
問　今回の補正は製造単価の上昇によるものだが、それによる販売価格の変更はあるのか。
答　町民へ販売する価格は変更しない。あくまで町が仕入れる価格の変更である。

請願と陳情　９月定例会に陳情２件が提出されました。

陳情　※陳情については、議員への配付のみとしています。

- 選挙における視覚障がい者への情報保障および当事者参画によるアクセシブル情報提供体制整備に関する陳情書
- 中山町情報公開条例における電磁的記録及び請求権主体（町民要件）に関する運用改善及び見直しのお願い

その議案に私は賛成、私は反対

９月定例会　採決状況

○賛成　●反対　㊍欠席　㊐退席

議案番号	議案名と主な内容	1 村山　隆	2 須貝　勝司	3 田宮　昌幸	4 夛田　慎二	5 斎藤　眞一	6 鈴木　徹雄	7 渡辺　博文	8 佐東　幸治	9 渡邉　史	議長 鎌上　徹
議第41号	令和７年度中山町一般会計歳入歳出決算の認定について 令和７年度中山町国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について 令和７年度中山町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について 令和７年度中山町介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について （⇒詳細は３ページ参照）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	*
42号	令和７年度中山町下水道事業会計決算の認定について （⇒詳細は３ページ参照）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	*
43号	令和８年度中山町一般会計補正予算（第４号）について 歳入歳出予算それぞれ１億4912万6000円増額し、総額を64億3503万3000円とする（⇒詳細は７ページ参照）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	*
44号	令和８年度中山町国民健康保険特別会計補正予算（第２号）について 歳入歳出予算それぞれ5894万1000円増額し、総額を13億1857万2000円とする	○	○	○	○	○	○	○	○	○	*
45号	令和８年度中山町後期高齢者医療特別会計補正予算（第１号）について 歳入歳出予算それぞれ346万8000円増額し、総額を２億3401万7000円とする	○	○	○	○	○	○	○	○	○	*
46号	令和８年度中山町介護保険特別会計補正予算（第２号）について 歳入歳出予算それぞれ5550万4000円増額し、総額を14億3104万6000円とする	○	○	○	○	○	○	○	○	○	*
47号	令和８年度中山町下水道事業会計補正予算（第１号）について 職員人件費及び企業債利息の変更に伴い補正するもの	○	○	○	○	○	○	○	○	○	*
48号	中山町教育委員会委員の任命について 教育委員会委員の任期満了に伴い、引き続きその候補者を任命するにあたり議会の同意を求めるもの（⇒詳細は下記参照）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	*
49号	人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて 人権擁護委員の任期満了に伴い、引き続きその候補者を推薦するにあたり議会の意見を求めるもの（⇒詳細は下記参照）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	*

※注：議長は採決に加わりません。

人事案件

中山町教育委員会委員の任命に同意

大津（おおつ）　俊則（としのり）氏
（柳沢　再任）



任期：令和８年10月１日～令和12年９月30日

人権擁護委員適任と答申

西堀（にしぼり）　潤子（じゅんこ）氏
（桜町　再任）



任期：令和９年１月１日～令和11年12月31日

ここが聞きたい！町政を問う

一般質問

一般質問とは、議員が町の事務・事業の執行状況や将来に対する考え方などの報告や説明を町長などに求め、町が町民のために適切な町政運営を進めているかを議員が問いただすものです。

質問方法は、効率的な議会運営を目的に、質問する議員があらかじめ議長に質問の趣旨などを知らせる「通告制」を採用し、議員はその内容に沿って質問します。中山町議会では、質問時間は答弁と合わせて40分以内としています。

５人の議員が一般質問

９月定例会では、５人の議員が一般質問を行い、将来の町政について活発な議論を展開しました。

質問者（発言順）

田宮　昌幸 議員（９ページ）
- 後期５か年の展望を問う
- 親元就農者や小規模農家への支援が必要では

須貝　勝司 議員（10ページ）
- クマ対策に先進技術の活用を

佐東　幸治 議員（11ページ）
- 今後４年間で、町長として何を行うのか

夛田　慎二 議員（12ページ）
- 楽天２軍誘致に向け、町民への説明が必要では
- 各種計画策定に「ブロードリスニング」の導入は

渡邉　史 議員（13ページ）
- 給食の選択肢を広げたい





後期５か年の展望を問う

田宮（たみや）　昌幸（まさゆき）　議員

町長「人口が減っても、町の力は減らさない」まちづくり

問　第６次中山町総合発展計画・後期５か年基本計画がスタートし、今後５年間は、「災害に強いまちづくり」を最優先に進めるとともに、町役場庁舎・公共施設再配置の事業化が重要だが、どんなイメージを持っているのか。

町長　本計画で描くイメージは、施設整備だけでなく、平時からの備え、地域のつながり、確実な情報伝達、防災教育、復旧支援までを一体的に進め、地域ぐるみで災害に備えるまちづくりである。

「人口が減っても、町の力は減らさない中山町」の実施設計の実現に向け、全力でその責任を果たしていく。

問　３月の一般質問で、町長から「雨水貯留施設は、特定都市河川のメニューにあり、水害の多い町の対策の１つとして検討したい」との答弁があったが、変わりがないか再度確認したい。

町長　雨水貯留施設を作っていかなければ、災害に強いまちづくりはできないと思っている。

問　全国各地で大規模災害が発生している。東北で２番目に「特定都市河川」に指定された当町は、全国のモデルになるような奇抜なアイデアで「災害に強いまちづくり」を目指す必要があると思うが。

町長　先駆け的なアイデアで、国、県、そして町と一緒になって考えていく体制づくりをしている。「災害に強いまちづくり」を一緒につくっていきたい。

親元就農者や小規模農家への支援が必要では

町　個別に相談にのっていきたい

問　国の「食料・農業・農村基本計画」には担い手への農地集約率の向上や49歳以下の担い手数の確保とあり、各市町村で認定農業者などに手厚い支援をしている。反面、65歳以上の従事者が大幅に減少している実態もある。

以前は、60歳以上の会社定年者が親元就農者として田畑を引き継ぎ、農地を守ってきた。60歳以上の親元就農者や小規模農家への支援がもっとあれば、耕作放棄地の減少策としても有効であり、後期5か年基本計画でも取り組むべきと思うがどうか。

産業振興課長　認定農業者になれば年齢に関係なく利用できる補助制度もある。まずは個別にご相談いただき支援したい。



離農対策が急がれる

私の思い

「前例がないので…」と役所で耳にするが、過去に例のない自然災害が多発している今、安全・安心なまちづくりのために、可能性が０でない限り、全力で取り組んでいただきたい。

クマ対策に先進技術の活用を



須貝（すがい） 勝司（かつし） 議員

町長　先進自治体の事例を調査・研究したい

問　クマの出没状況の傾向と、安全確保に向けた基本的な対応方針は。

町長　目撃情報等から、山伝いに南方向から金沢地区内に侵入するルートが主であると分析している。

目撃情報があった場合は、現場状況の確認、関係機関との情報共有、町民への注意喚起、定期的な巡回、わなの設置等の対応をしている。

問　クマを人里に寄せつけない環境づくりのため、未然防止策をどのように進めていく考えか。

町長　緩衝地帯を設けることで、人の生活圏への移動を減らすことができると考えられるため、令和8年度から自治会で行う藪（やぶ）の刈払い費用を補助している。また、放置果樹の適切な管理を目的に不要果樹の伐採費用も補助している。

問　先進技術を活用した対策について、調査・検討しているのか。また、導入の可能性は。

町長　現在、2台のセンサーカメラを保有し、クマ等の出没情報があった場合には、必要に応じてカメラを設置・観測している。今後も先進自治体の事例等を調査し、導入や運用に関する研究を進めたい。

問　ドローンを活用したクマの監視や追い払いなど新たな対策について、今後の検討の方向性は。

町長　今年、金沢地区に出没した際、発見には至らなかったが、住宅地の東西2か所の農地で、町が配備しているドローンを垂直飛行させ、上空から捜索した。今後も活用範囲を拡大するための体制づくりに取り組んでいく。

問　先月、新聞報道にもあったが、山形県ではクマなどの鳥獣被害対策において、中間支援組織の設立を検討しているとのことだが、当町も参加しているのか。

産業振興課長　中間支援組織については、県において令和9年4月の設立を目指しており、当町も加入の意向を示している。

問　クマスプレーについては、全国的に誤噴射のトラブルが起きており注意を呼びかけている。また、噴射距離が7・5m以上で噴射時間は6秒以上のものが推奨されている。そういった情報を町民に知らせることも重要と考える。町で試験的に購入し調査して広報することは考えているか。

産業振興課長　クマスプレーについては町でも所有しているが、風向きなどによっては危険だという情報もある。スプレーやそれ以外の物品についても、広く使い方や注意事項をお知らせする必要があると考えており、検討していきたい。



町民への注意喚起を徹底してほしい

今後４年間で、町長として何を行うのか



佐東（さとう） 幸治（こうじ） 議員

町長　町の将来設計図が完成するまで担当したい

問　町を取り巻く環境は、人口減少、少子高齢化、地域産業の担い手不足、公共施設の老朽化、財政負担の増大など、これまで以上に厳しくなっている。限られた財源と人員の中で、今後4年間で「何を優先し、何を実現するのか」を明確にすることが重要だと考える。
そこで町長にお伺いする。
特に優先順位の高い政策を3つ挙げるとすれば、何か。

町長　第1に「町民の命を守る防災・減災のまちづくり」、第2に「公共施設再配置による持続可能なコンパクトシティの実現」、第3に「交流人口の拡大による地域経済の活性化」という3つの目的を実現すること。

問　町民が「変わった」と実感できる具体的な成果は何か。

町長　生活が変わったと感じることは難しいと思うが、「町に人が集い、新たな活力が生まれ、中山町には未来がある」「人口が減っても町の力は減らない」と実感してもらえることが私の目指す姿である。

問　今後4年間で、どの程度の財源を確保し、どのような財源を活用する考えか。

町長　具体的な額と活用する財源を、現時点で明確に申し上げることはできないが、国の補助制度や民間資金など、あらゆる財源を活用していきたい。

問　行政改革をどのように進めるのか。

町長　DXの活用による業務効率化や、既存業務の見直しなどにより、事業の継続・廃止・内容の検討を図っていきたい。
また、山形連携中枢都市圏などの連携事業を通じて、より広域の視点で行政サービスのあり方を考えていきたい。

問　最後に「これまで、これを実現した」と町民に示したいものは何か。

町長　私の評価をしていただくのは町民の皆さまである。しかし、「西郷兄弟との縁」、「日本体育大学との連携」、「保育園の民営化構想の見直し」、「高校3年生までの医療費無料化」、「小中学校の給食費無償化」、「国道112号バイパス事業の決定」、「町営住宅の整備」、「旧柏倉九左衛門家住宅の国指定重要文化財指定」など、先の中山町を見据えた施策を積み重ねてきた。
「人口が減っても町の力は減らさない中山町」の実現に向け、未来への責任を果たしていきたい。

私の思い

これまでの活動に敬意を表したい。しかし、財源なき計画は「絵に描いた餅」である。


町民の交流が活発になる役場庁舎に

楽天２軍誘致に向け、町民への説明が必要では



多田 慎二（ただ しんじ） 議員

町長　球団への説明の前に開催したい

問　町として東北楽天ゴールデンイーグルス２軍の誘致を表明した。誘致を実現するためには町民全体の歓迎ムードと理解が不可欠である。報道先行で終わらせず、町長自らが誘致の目的や描く未来像を直接町民に語りかけ、町一丸となるために「住民説明会」や「総決起集会」などを開催するべきではないか。

町長　誘致活動の目的は地域経済の活性化、交流人口の拡大、町のブランド力向上、シビックプライドの醸成、そして将来を見据えた都市基盤整備など、中山町の未来につながる総合的なまちづくりを実現することにある。

　そのためには、行政が進めるだけではなく、目的や目指す将来像を町民の皆さまと共有することが何より大切であると考えている。今後、山形県の動向を見ながら「住民説明会」や「総決起集会」等を開催できる時期を判断していきたい。



楽天２軍誘致に向け、始動

問　当町の誘致活動の特設サイトを見ると、12月までの段階で４段階のステップが示されている。

　その中で県への説明の後に「球団への説明」が掲載されているが、「球団への説明」の前に町民と直接対話する場を設けるべきではないかと思うが、その点についてはどうか。

町長　そのように進めていきたいと思っている。

各種計画策定に「ブロードリスニング」の導入は

町長　有効な手法だが、課題の検証も必要

問　公共施設再配置をはじめ、多くの個別計画の策定が予定されている。これまでも計画策定に当たり、パブリックコメントやワークショップなどを実施してきたが、専門的かつ長文の計画書を読み込んだ上で意見を出すパブリックコメントは、町民にとって参加のハードルが高いという課題がある。他の自治体では、生成ＡＩを活用して難解な計画書をわかりやすく要約した上で、ＡＩと対話しながら意見を整理・投稿できる「ブロードリスニング」の手法を取り入れ始めている。これらは、町民が主体的に意見を出しやすくするだけでなく、集まった多様な意見の可視化や取りまとめ作業の大幅な効率化が期待できる。当町でも導入してはどうか。

町長　町民が意見を出しやすい環境を整え、これまで拾い上げにくかった町民の小さな声をまちづくりに反映する上で有効な手法の一つになりうると考えている。

　一方、導入に当たっては、個人情報や情報セキュリティ、ＡＩによる要約・分析の正確性や公平性、少数意見の取扱いに加え、導入・運用に要する費用などを検証する必要がある。

　また、デジタル機器の利用が難しい方にも配慮し、従来のパブリックコメントなどとの併用も必要である。

　今後、導入効果や運用上の課題を調査し、費用対効果を含め当町に適した活用方法を探っていきたいと考えている。

私の思い

球団の誘致は20数年ぶりの挑戦となる。地域全体で再び熱い応援の輪を広げ、笑顔で「おかえりなさい」と言えるよう、町一丸となって誘致を成功させたい。

給食の選択肢を広げたい



渡邉（わたなべ） 史（ふみ） 議員

教育長　支援制度導入の情報収集をしていく

問　令和３年から、県内でも先駆けてふるさと納税等を活用した学校給食費の無償化が実現し、保護者の１人として心から感謝している。一方、食物アレルギーや宗教上の理由、病気、長期欠席、不登校などで給食を食べられない児童生徒もいる。その実態はどう把握しているのか。

教育長　食物アレルギーは、毎年児童生徒向けに調査し、対応が必要な場合は保護者と直接面談して把握している。病気や不登校による長期欠席は、学校からの調査報告で把握している。

問　そうした児童生徒に対しどのような代替措置、経済的支援、個別配慮をしているのか。特に恒常的に給食を食べられない場合の取り扱いはどう整理しているのか。

教育長　アレルギー対応が必要な児童生徒は現在18名おり、除去食または代替食で対応している。恒常的に給食の全部を停止している児童生徒はおらず、不登校傾向の児童生徒も、登校できた日に学校で給食を食べられるよう常に準備している。また、不登校や不登校傾向にある児童生徒の、給食の実際の喫食状況については確認していない。

問　給食費の無償化と、給食を食べられない子どもの食事が保障されることは同じではない。給食を食べられない子どもの食事が、家庭などで十分に確保されているか把握しているのか。

教育長　全児童生徒分は提供しているが、さまざまなケースがある。情報収集しながら対応していくが、家庭での食事についてまでは把握できていないのが現状である。

問　私は、給食のために学校に行かせるべきではないと考える。子どもの状態や意思を尊重し、どこであれ必要な食事をとれるようにすることが大切である。給食を食べられるという選択肢を残す意味でも、学校以外、例えば教育支援センター等での食事提供や、給食費相当額の支給を考えてほしい。全国には給付事例がある。給食にかわる食事を保障する制度の導入を検討する考えはあるか。

教育長　学校以外での提供は、給食の運搬や衛生面の課題があり、現時点では想定していない。

教育課長　給食費相当額の支給は県内でも事例が少ない。国の考え方も確認しながら先行事例を調査し、今後決めていきたい。制度構築をきちんとした上で公表していきたい。

教育課長　一部喫食できない児童生徒がいるが、そうした児童生徒への代替支援は今は実施していない状況にある。



食べることは生きること。
家庭でも、学校でも。

私の思い

食事には、心身の健康や生活リズムを支える大切な役割がある。学校給食費無償化から数年が経ち、家庭での子どもの食への意識は薄れていないだろうか。自律神経の不調を訴える子どもも増えている。無償化に感謝しつつ、給食を食べられない子どもにも給食に代わる食事の保障を、家庭と一緒に考えていきたい。

臨時会が開催されました

8月4日臨時会　公共施設再配置計画基本計画にかかる勉強会や現地視察費用等の増額

8月4日、令和8年第4回臨時会が開催され、令和8年度中山町一般会計補正予算（第2号）として、下記の予算が原案のとおり可決されました。

- **公共施設等総合管理計画推進事業　252万6000円**
  着実な議論を進めるため、関係者を対象に勉強会や関連施設の視察を実施するための費用を増額するものです。（⇒関連記事P16）
- **果樹畑作需給拡大推進事業　151万4000円**
  主な内容は、さくらんぼの次期作における高温の影響を軽減するため、県と町が協調し、遮光資材や散水設備等の導入を支援するための予算を計上するものです。

8月26日臨時会　楽天2軍の誘致活動に必要な経費を計上

8月26日、令和8年第5回臨時会が開催され、令和8年度中山町一般会計補正予算（第3号）として、東北楽天ゴールデンイーグルス2軍の誘致活動に関連する予算が原案のとおり可決されました。

- **報償費（講師謝礼、資料作成等の謝礼等）　60万円**
- **需用費（のぼり等の消耗品費、印刷製本費）　130万円**
- **委託料（看板作成業務委託）　10万円**



子どもたちのみらいのために

一般会計補正予算第2号および第3号により、歳入歳出予算総額は62億8590万7000円となります。

その議案に私は賛成、私は反対

8月臨時会　採決状況

○賛成　●反対　㊡欠席　㊟退席

議案番号	議案名と主な内容	1 村山隆	2 須貝勝司	3 田宮昌幸	4 多田慎二	5 斎藤眞一	6 鈴木徹雄	7 渡辺博文	8 佐東幸治	9 渡邉史	議長 鎌上徹
議第39号	令和8年度中山町一般会計補正予算（第2号）について 歳入歳出予算それぞれ420万7000円増額し、総額を62億8390万7000円とする	○	○	○	○	○	○	○	○	○	*
議第40号	令和8年度中山町一般会計補正予算（第3号）について 歳入歳出予算それぞれ200万円増額し、総額を62億8590万7000円とする	○	○	○	○	○	○	○	○	○	*

令和8年　中山町議会8月臨時会日程表

期　日	会　議	備　考
8月4日(火)	(全員協議会) 本　会　議	議第39号　提案理由の説明、質疑、討論、採決
8月26日(水)	(全員協議会) 本　会　議	議第40号　提案理由の説明、質疑、討論、採決

議会活動報告

議会ダイアリー

※【　】内は参加者　※議会全体の主な動きを抜粋して掲載しています。

●6月（前号掲載以降）

24日　国への要望会【正副議長】⇒関連記事P18
27日　2026柏倉九左衛門家紅花まつり開会行事【議長】

●7月

1日～3日　最上川中部水道企業団議会視察研修【派遣議員】⇒関連記事P22
2日　豊田小学校役場見学【議会広報常任委員長】⇒関連記事P24
10日　ＪＲ左沢線対策協議会総会【議長】
13日　山形県町村議会広報研修会【委員】⇒関連記事P20
15日～17日　村山地方町村議会議長会正副議長視察研修【正副議長】⇒関連記事P19
21日　全員協議会【議員】
議会活性化特別委員会第1・第2小委員会【委員】
22日　知事と町村議会議長との意見交換会【議長】
23日　県への要望会【正副議長】⇒関連記事P18
24日　村山地方町村会・議長会合同会議【議長】
27日　国道458号整備促進同盟会総会及び国道287号西村山地区、主要地方道天童寒河江線・天童大江線整備促進同盟会総会【議長】
29日　議員懇談会【議員】
議会活性化特別委員会（ハラスメント防止研修会）【委員、議長】

●8月

1日　こども議会講座【議員】⇒関連記事P24
3日　最上川上流村山地区改修期成同盟会総会【議長】
議会視察受け入れ（茨城県城里町）【議員】⇒関連記事P21
山形広域環境事務組合議会定例会【派遣議員】⇒関連記事P22
4日　議会運営委員会【委員、正副議長】
町議会8月臨時会【議員】⇒関連記事P14
7日　中山町戦没者追悼式【議員】
議会視察受け入れ（宮城県利府町）【議員】⇒関連記事P21
15日　二十歳を祝う会【議員】
18日　岩谷十八夜観音例祭【議長】
19日　全員協議会、議員懇談会【議員】
20日　山形県、岩手県、秋田県合同町村議会議長等中央研修会【議長】
東北楽天ゴールデンイーグルス2軍拠点誘致　記者発表会【副議長】
21日　県関係国会議員との懇談会【議長】
25日　議会運営委員会【委員、正副議長】
26日　町議会8月臨時会【議員】⇒関連記事P14
28日　全国町村議会広報研修会（東京都）【委員】⇒関連記事P20
31日　公共施設再配置計画基本計画策定に係る先進地視察及び第1回勉強会【委員、議長】⇒関連記事P16
8月中　議会広報常任委員会（2回）【委員】

●9月

3日～11日　町議会9月定例会【議員】⇒関連記事P2～13
6日　安全・安心まちづくり町民大会【議員】



9日　山形県政150周年記念式典【議長】
15日～17日　大型行政視察研修【議員】⇒関連記事P17
19日　山形県グラウンド・ゴルフ交歓大会【議長】
24日　公共施設再配置計画基本計画策定に係る第2回勉強会【委員、議長】
9月中　議会広報常任委員会（1回）【委員】

●10月（一部）

1日、2日　最上・荘内・村山地方町村議会議長会合同研修会【議長】
5日　町表彰式【議員】
8日　置賜・村山地方町村議会議長会合同会議【議長】
10月中　議会広報常任委員会（3回）【委員】

地域再生＆創生とは

大型行政視察研修

９月15日から17日にかけて、鹿児島県鹿屋市串良町の柳谷集落（やねだん）と東串良町の２か所で行政視察研修を行いました。内容は次のとおりです。

●鹿屋市・やねだん「行政に頼らない感動の地域づくり」

「やねだん」は鹿児島県鹿屋市串良町にある柳谷集落の通称で、自治公民館を中心とした住民主体の地域づくりを行っています。大きな特徴は、**補助金だけに頼るのではなく、地域資源を活用して自主財源を生み出し、その利益を地域に還元する仕組み**です。

20年ほど前は、人口300人、65歳以上が４割という「過疎高齢化の集落」でした。公民館長に就任した豊重哲郎氏を中心に「住民一人ひとりが地域づくりの主役」を信念に全員参加のむらおこしを進めてきました。


やねだんの歴史を語る豊重氏

「補助金頼みでは、集落も人も育たない。」として、自主財源確保のために休耕地にサツマイモを栽培。当初30アールの土地を１ヘクタールに拡大し、集落の住民全員で取り組みを行い、収益が80万円になりました。さらに、家畜糞尿の悪臭対策から土着菌堆肥を作り、それを使って育てたサツマイモを用いたオリジナル焼酎などの商品開発へ発展。土着菌や焼酎の売り上げ剰余金を500万円計上したことにより、当時、全世帯にボーナスが配られました。他にも剰余金の活用として、福祉関係や青少年育成関係、環境整備等に使われたこともあるとのことです。

成功の秘訣は、一人ひとりに目配り・気配り・心配りして、「みんなに出番がある。補欠のいないチームだ。」と言い続けたことと、リーダーの情熱だと感じました。

●鹿児島県東串良町「ブランド化『産地名』を商品価値に変える」

東串良町は、人口6,298人、面積28㎢で中山町よりも小さな町です。町では、**園芸振興会、ＪＡ、行政、生産者が連携し**、選果場を拠点に選別・規格統一、共同出荷を行っています。その結果、「かごしまブランド」認証を30数年維持し、活用することで、産地の信頼性と市場評価を高め、**「東串良のピーマン」と「東串良のきゅうり」の販売額は合わせて32億円の実績**を上げています。

また、今まで農薬中心の病害虫防除が行われていましたが、天敵を活用した防除法を取り入れたＩＰＭ（総合的病害虫・雑草管理技術）への取り組みが行われ、ピーマンの袋にもＩＰＭ標記がされています。

中山町もブランド化や差別化のために、ＪＡ、行政、生産者の連携強化が必要と感じました。



生産者との連携強化によりブランド化

今回の研修で学んだ各種事例を参考に、中山町にどのような形で取り入れられるのか、しっかりと検討・議論し、提案していきます。

義務教育学校と公共施設再配置を学ぶ

公共施設再配置特別委員会（委員長：村山　隆）

８月31日、公共施設再配置計画策定審議会・教育委員会・学校教諭・関係課職員との合同で、先進地視察および勉強会が行われました。（広報なかやま10月号に関連記事）

【午前】新庄市立明倫学園を視察

新庄市教育委員会学校教育課長から「新庄市の小中一貫教育」、明倫学園校長から「令和８年度の学校経営概要」の説明を受け、施設内を見学しました。同学園では「中１ギャップ」解消のため、前期４年・中期３年・後期２年のブロック制を採用。特色ある教育課程として、①いのちの教育の推進、②教科担任制の導入、③異学年交流の推進、④ふるさと学習の推進を柱とし、４年・７年・９年生にリーダーの機会を設けています。

施設は各ブロックごとに２・３階が教室、１階は大小のアリーナや特別教室・地域交流スペースを配置。自校給食、屋上プール、１年生から９年生までが読みたい本が並ぶ図書室には常勤の職員も配置され、９年間の学びを支えるさまざまな工夫が見られました。


小アリーナの上は屋上プールになっている


１～９年生の本が並ぶ図書室

【午後】公共施設再配置に関する勉強会

山形大学工学部准教授・高澤由美氏は「公共施設再配置の意義」と題して講演し、財源確保と住民の合意形成が鍵であると指摘しました。中山町では安全なまちづくり・防災の視点が大事であるとし、日本の都市計画家 石川栄耀氏の「社会に対する愛情、それを都市計画と云う」の言葉を紹介しながら、未来につながるまちづくりを考えようと呼びかけました。

続いて、同大学院准教授・宗政由桐氏は「公共施設再配置計画のまとめ方」と題して講演し、集約化により延べ床面積で20～30％、費用でも50年間で数十億円の削減効果が見込まれるとの試算や、全国各地の事例を示しました。


午後の勉強会の様子

今後も視察や勉強会を重ね、視察先の取り組みをそのまま持ち込むのではなく、中山町にふさわしいやり方をていねいに見極めながら、議会・町民・職員と共に、未来につながるまちづくりのための調査研究を進めていきます。

予算獲得に向けて

令和９年度　中山町重要事業要望活動

令和９年度の予算編成に向けて、６月24日に国土交通省東北地方整備局と山形河川国道事務所に、また、７月23日に山形県知事および村山総合支庁長に、中山町重要事業要望書を提出しました。

要望事項は次のとおりです。

【東北地方整備局・山形河川国道事務所】

- ○公共事業予算・防災減災対策の充実について
- ○最上川流域の総合的な治水対策の推進について
- ○国道112号の整備促進について

【山形県知事・村山総合支庁】

- ○東北楽天ゴールデンイーグルスの２軍拠点誘致に対する支援について
- ○一級河川石子沢川の減災対策の推進について

【村山総合支庁】

- ○山形県医療給付制度の充実について
- ○地域生活支援事業費等補助金について
- ○国道458号・国道112号の整備について
- ○都市計画道路天童中山線の道路整備事業化について
- ○新たな「土砂災害が発生するおそれのある箇所」に係る基礎調査の早期実施について
- ○歩道除雪体制の強化について



東北地方整備局長へ要望書を提出しました

重要事業の実現のためには、国の施策や制度を取り込み、また、県からの支援も含め、総合的な事業の構築が必要です。そのために、今後とも国・県との情報共有に努め、予算獲得を目指します。

みんなの議会　傍聴しませんか

次回の定例会は

12月４日（金）～８日（火）

の予定です。

お気軽にお越しください。

お問い合わせ
中山町議会事務局　TEL：023-662-4370　FAX：023-662-2538

自分事として考え、行動しよう

村山地方町村議会議長会　正副議長視察研修

７月15日～17日、村山地方の町村議会正副議長14名が参加し、広島県府中町（ふちゅうちょう）で防災対策の取り組みについて、竹原市（たけはらし）で官民連携のまちづくりについて行政視察を行いました。内容は次のとおりです。

府　中　町

府中町は周囲を広島市に囲まれ、面積10.41㎢、人口５万1,698人という日本一人口密度の高い町で、自動車メーカーの本社がある企業城下町です。府中町では、平成30年の７月豪雨により、土砂災害27か所、道路・河川等の損壊40か所など、甚大な被害がありました。町では復旧に際して独自の補助制度を設けたほか、被災箇所ごとの復旧スケジュールを作成・公開し、目に見える形での復旧に取り組みました。

また、防災に対する取り組みとして、自主防災組織の拡充（95%）や、小学校での防災講座、Ｗｅｂハザードマップの随時更新など、情報発信に努めるとともに、災害を忘れることのないよう、記録誌や記録映像の保存・公開、記念碑の建立など、あらゆる手段を用いて防災意識の向上に努めています。



府中町災害記録史 ―江戸から令和―

竹　原　市

竹原市は「竹の街・安芸の小京都」と呼ばれ、かつては製塩業で栄え、その栄華は蔵のある街並みとして現代に伝えられています。朝の連続テレビ小説「マッサン」の主人公のモデルとなった竹鶴政孝氏の生家である竹鶴酒造も、その一画にあります。

一方、近年は人口減少（現在２万1,719人）が著しく、観光の拡大と人口増加を市の最大課題と捉えています。そこで市は「ＡＬＬ竹原きらっと未来創造会議」を設立、若者・女性が主体となり、自分たちが住みやすい、暮らしやすいまちは、どうあるべきかさまざまな課題へ提案を受け、それを事業化し効果を上げています。

また、観光面では「竹原ＤＭＯ」を立ち上げ、観光振興、ふるさと納税の事務委託、移住・定住を事業の３本柱に据え、行政に頼らない独自の振興策を確立しようとしています。


いにしえの町並みを観光に活かしています

今回、２つの市・町を行政視察しましたが、どちらも「自分事として考える意識の高さ」を感じました。防災では、いつ、いかなる時も自分で自分を守るが基本となり、そのためには過去の災害を正しく記録し、記憶しておくことが大切です。また、観光･まちづくりにおいては、自分たちのまちは、自分たちで創る、そのアイデアを具現化していく組織も大事であることを学びました。

リニューアルにご意見をいただきました

議会広報常任委員会（委員長：夛田慎二）

７月13日、山形市のビッグウイングにおいて、山形県町村議会広報研修会が開催されました。昨年同様に芳野政明（よしのまさあき）氏を講師に迎え、リニューアル後に発行した『なかやま議会だより第37号』の講評をいただきました。

●課題点

特集の農業者との意見交換会の中で、農業者の意見だけでなく議会側の意見など、双方向性やまとめの文章が必要です。

●総合判定

住民参加や協働の取り組みも増えており、議会広報の充実・進化が顕著です。定例会はじめ議会活動報告も、議決事項、本会議での議案に対する質疑や討論、委員会審査、一般質問などトータルで的確に伝えています。

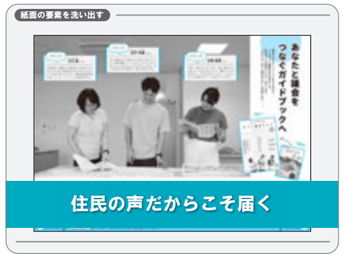


やわらかな親しみやすい表紙へ進化しました

広報でまちをつなぐ

議会広報常任委員会（委員長：夛田慎二）

８月28日、全国町村議会広報研修会が、東京都のLINE CUBE SHIBUYA（渋谷公会堂）で開かれました。研修会では、①「住民と議会をつなぐ広報デザイン術～（奈良県）王寺町（おうじちょう）議会広報紙のリニューアル その狙いと効果～」、②「議会広報紙のビフォーアフター 紙面を見直す、効果的なテクニック」、③「山形県川西町議会における議会広報の取り組み～『読まれる』議会だよりを目指して～」をテーマに、３人の講師が講演を行いました。



王寺町議会だより：住民参加でリニューアル（研修資料より）

中でも、誰に読んでほしいのかというターゲットや、広報紙のコンセプトをしっかり決めることの大切さが伝えられました。また、住民の声を何より大切にし、誰のための広報なのかを考えながら、住民と一緒に広報をつくっていくことの大切さについても話がありました。さらに、対象の年代を決めていても、ユニバーサルデザイン（すべての人にとって使いやすく、できるだけ多くの人が利用しやすいデザイン）を意識した紙面にすることで、結果として誰にでも読みやすい広報紙になることを学びました。

地域に関わるきっかけが少なくなっている今、広報紙には住民同士や住民と町とのつながりをつくり、維持する大切な役割があることを改めて感じる機会となりました。

令和７年度初開催、ライトアップの効果は

柏倉家住宅保存・利活用特別委員会（委員長：夛田慎二）

９月３日、柏倉家住宅保存・利活用特別委員会が開催されました。

令和７年度の柏倉家住宅関連事業の歳出については、施設管理事業約1065万円、修繕事業約172万円（板塀設置工事関連2541万円は令和８年度に繰り越し）、公開事業約440万円となり、入館者数は2,146名だったことが報告されました。

また、初めて開催された冬の特別公開（ライトアップ）については２日間で188名の来場があったほか、テレビ中継や新聞掲載などの成果がありました。

次に、令和８年度の関連事業の実施状況として、繰り越し事業となっていた板塀設置工事が完了したこと、主屋屋根の差し茅（かや）による応急補修についての説明を受けました。委員からは今後の応急補修の方法についての意見などが出されました。



ライトアップで幻想的な姿になった旧柏倉家住宅

ようこそ中山町議会へ

行政視察の受け入れ

●茨城県城里町（しろさとまち）議会運営委員会（８月３日）

城里町議会議員６名、事務局２名の行政視察を受け入れました。

調査テーマは「議会改革について」でした。

議会活性化については町民アンケートの結果を受けて、消防団や農業者団体との意見交換会を実施したこと、議会だよりミュージアムやこども議会講座など「議会を身近に感じてもらう取り組み」を説明しました。

また、なり手不足対策として、30年以上据え置かれている議員報酬の見直しを求めていることなどを紹介したほか、議会だよりについてなど、多岐にわたり意見交換を行いました。

●宮城県利府町（りふちょう）議会産業建設常任委員会（８月７日）

利府町議会議員５名、事務局１名、町職員１名の行政視察を受け入れました。

調査テーマは「公営住宅の建て替えにおける民間活力の活用について」で、当町からは議員のほか、建設課職員が対応しました。

町営中原住宅の建て替え事業において、初めてＰＦＩ事業を導入した結果、工期を大幅に短縮でき、事業費を28％縮減できたことなどを説明しました。

あわせて、公募の条件などについて意見交換を行いました。

現地視察では「私も住んでみたい」など好意的な意見をいただきました。

今後も視察先に選ばれるような取り組みを進めるとともに、受け入れ体制についても整えていきます。

欠員に伴い委員会体制を改編

９月14日、佐東幸治議員が鎌上議長に辞職願を提出し、許可されました。

これにより議会は欠員１名となり、任期満了に伴う町長選挙（令和９年１月12日告示、17日投開票）にあわせて議員補欠選挙が行われることになります。

また、９月24日に正・副委員長が欠員となった特別委員会を開催し、次のとおり決定しました。（変更は赤線）

●公共施設再配置特別委員会	委員長：村山　隆	副委員長：夛田　慎二
●治山・治水特別委員会	委員長：村山　隆	副委員長：夛田　慎二
●柏倉家住宅保存・利活用特別委員会	委員長：夛田　慎二	副委員長：渡邉　史
●感染症対策特別委員会	委員長：渡辺　博文	副委員長：渡邉　史

広報モニターの声

ワンポイントアドバイス

「議会だより」を町民の皆さまに興味を持って読んでもらえる内容にするため、感想・意見をいただいている「広報モニター」の声をご紹介します。

「広報モニター」は随時募集中です。ご興味のある方はお問い合わせください。

第38号から

広報モニターより

○表紙は「顔」であり、インパクトのある表紙はなかなか難しいと思いますが、中山町が活力に満ち町民が引き付けられる表紙を望みます。

○「検討します」の答えには、皆さん疑問をもっていると思っていましたので、その後を検証してくださったことは、とても良かったです。

○一般質問された２名の方は、大変勉強されていると思います。残念な点は、あまりにも質問する議員が他市町村と比べ少なすぎることです。

いただいたご意見は議会全体で共有させていただきました。

○まち・ひとインタビューは人選が大変だと思いますが、とても楽しみに読んでいます。

意見投稿をいただきました

○請願と陳情のページで、多くの討論が記載され、議員の考えが分かって良かった。

○イベント情報は、他市町のことより、地区の小さな行事でも、中山のイベントを紹介してほしい。

ご意見、ご感想をお待ちしております。

連絡先：議会事務局　TEL：023-662-4370
FAX：023-662-2538

ご意見投稿はこちらから

中山町イベント情報

①とき ②ところ ③内容 ④問い合わせ

※イベントは予告なく変更になる場合があります。

中山町初市

①令和９年１月14日(木) 10:00～
②ひまわり温泉ゆ・ら・ら前
④中山町観光協会事務局 TEL023-662-2114

今回、「まち・ひとインタビュー」は休載します。

持続可能な企業経営と適正な料金とは

最上川中部水道企業団議会

７月１日から３日にかけて、北海道音更町上下水道部と深川市建設水道部に伺い、視察研修を行いました。内容は次のとおりです。

研修目的として、①施設・管路の老朽化、人口減少対策、②物価高騰、料金改定、③災害対策等、現在抱えている共通課題に対して、どんな対策をしているのか研修・視察しました。

音更町では、安全な水を供給し続けるための中長期的な経営戦略を学びました。

音更町は、帯広市のベッドタウンとして市街化団地の拡大により現在の人口は４万1,000人。事業経営も安定し１億1800万円の当期純利益を計上しています。しかし、人口減少、管路の老朽化による更新・耐震化工事は避けられず、令和12年度から当期純損失が発生すると予想しています。

そこで、令和12年度までに基幹管路耐震化率目標を70%、財政計画では経常収支比率90%以上を目標に中長期的な経営戦略を策定し、将来的に持続可能な企業経営に向け、適正な料金のあり方などを検討しています。

深川市の人口は１万7,000人で、人口減少に伴う料金収入の減少や、給水区域が広く配水池などの施設も多いため、水道施設の維持管理にかかる費用が大きく、事業経営は赤字が続き、今年度から水道料金を平均で29.3%値上げしました。

水道事業は固定費が大部分を占める装置産業であり、耐震化を進めていくことも重要で老朽化の度合いや事故時の影響度を踏まえ、計画的に更新していく必要があると実感しました。



共通課題に対して積極的な情報交換

中山町負担額　約429万円増

山形広域環境事務組合議会

８月３日、山形広域環境事務組合議会定例会が開催されました。

はじめに議長・副議長選挙が行われ、いずれも指名推選により、議長に中野信吾議員（山形市）、副議長に大沢芳朋議員（上山市）が選出されました。

次に、令和７年度の決算について歳入総額36億1003万4539円、歳出総額35億5907万2329円が認定されました。差引残額5096万2210円は令和８年度に繰り越されます。

中山町の負担額は9813万6000円で対前年比429万1000円の増となりました。

そのほか、情報公開・個人情報保護審査会委員の選任と、任期満了となる監査委員・樋口和男委員（山辺町議員）の後任に夛田慎二委員を選任することがそれぞれ同意されました。

今号の表紙：秋を満喫！中山すももウォーキング

９月13日、第５回中山すももウォーキングが開催されました。

秋晴れの空の下、約300名の参加者が「鉄道橋一望コース」と「旧柏倉家住宅コース」に分かれ、それぞれのペースで中山町ならではの風景を楽しみながら歩きました。チェックポイントでは、旬のスモモ「秋姫」やシャインマスカットが振る舞われ、「おいしい」と好評でした。家族連れの参加も多く、途中で疲れてしまった子どもたちもいましたが、ゴールでは皆さん笑顔を見せていました。



そろって、笑顔でゴール！▶

特集　連載シリーズ第４弾「楽しい仲間たち」番外編



きょうから議会はかせ！



議会ってなぁに？「こども議会講座」で楽しく学びました！

８月１日、町立図書館ほんわ館で、小学３年生から中学生までの子どもとその保護者を対象に、夏休み企画「こども議会講座」を開催しました。会場には、ほんわ館の職員が選んだ議会や民主主義に関する本も並び、子どもとその保護者、計９名が受講しました。

講座では、キッズガイド「町議会ってなぁに？」を使い、議会の仕組みや議員の仕事を学び、スライドに合わせたクイズにも挑戦。子どもたちは楽しみながら参加することができました。

講座の最後には、鎌上徹議長が一人ひとりに「こども議会はかせ認定証」を手渡し、認定証を受け取った子どもたちは、誇らしげな笑顔を見せていました。



▲クイズに手を挙げて答える子どもたち

受講後のアンケートでは、「楽しかった」「役に立った」といった声が寄せられ、小学生からは「100円ショップがほしい」「いろいろなものが売っているお店がほしい」など、町への提案もありました。中学生からは「生徒会と似ているところがあり、議会のことを身近に感じた」との感想が寄せられ、保護者からも「とてもためになる内容なので、もっとたくさんの人に知ってほしい」との声がありました。



▲参加者全員での記念撮影

今回の講座は、子どもたちが町議会を身近に感じ、まちづくりについて考えるきっかけとなりました。

このキッズガイドを使った出前講座のご要望もお待ちしています。お問い合わせは中山町議会事務局（TEL023-662-4370）まで。

豊田小学校３年生のみなさんが役場見学に来てくれました

７月２日、豊田小学校３年生６人が役場見学に来てくれました。キッズガイド「町議会ってなぁに？」のスライドを使い、議場の様子や議員の仕事について学習。子どもたちは、真剣なまなざしで話に耳を傾けていました。



▲説明を聞く豊田小学校３年生のみなさん



なかやま 議会だより
No.39
発行日：令和８年11月１日
発　行：中 山 町 議 会
発行責任者：議長 鎌上 徹
〒990-0492 山形県東村山郡中山町大字長崎120番地
TEL:023-662-4370 FAX:023-662-2538
E-mail:gikai@town.nakayama.yamagata.jp
印刷：大場印刷株式会社

録画配信はこちらから
町公式ＨＰ

過去の議会だよりはこちらから
町公式ＨＰ
SideBooks アプリ

【議会広報常任委員会】委員長：夛田慎二　副委員長：渡邉史　委員：村山隆　田宮昌幸

皆さまのご意見、ご感想など、お寄せください。次回第40号の発行は**２月１日**です。

R60 古紙パルプ配合率60％再生紙を使用
VEGETABLE OIL INK
この広報紙は
再生紙・植物油インキを使用しています。
「なかやま議会だより」の文字書体は誰にでも読みやすいユニバーサル書体を使用しています。